



きんひが通信

令和2年3月27日

<第45号>

校長 平塚智康

1年間ありがとうございました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月2日から全国一斉の臨時休業（加賀市は3月3日から）という、未曾有の事態となり、保護者の皆様には、大変ご負担をおかけすることとなりました。臨時休業の間、子どもたちの家庭学習への支援や健康管理について、ご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

先週、各担任が家庭訪問をさせていただいたところ、どの子ども、元気な様子で、またたくさん出された課題や家庭学習にも、一生懸命取り組んでいたという報告を受けて、ひとまず安堵しておりました。

そして、石川県及び加賀市においては、地域の実情を踏まえ、学校再開に向けて準備を始めています。今週は臨時休業中の学習補充を行いました。そして、本日、学年末の修了式・離任式・通知表渡しを行いました。年度内に、補充学習や修了式、通知表渡しを行えたことは、新年度へのスイッチを切り替える意味でも、良かったなと思っています。

4月に錦城東小に赴任してからもう早や1年が過ぎようとしています。3年間現場を離れ、子どもたちのいない行政に籍を置いていたので、明るく元気な子どもたちの笑顔に囲まれて過ごす毎日は、とても幸せな時間でした。そして、保護者の皆様には、いつも温かく本校の教育活動を見守り、支えていただきまして、本当にありがとうございました。また、来年度も錦城東小で勤務できることになり、心からよかったなと思っています。子どもたちが通いたい、保護者や地域の皆様が通わせたい、そのように思える錦城東小を作るため、これからも精一杯がんばっていきます。来年度もどうぞよろしく願いいたします。

校長 平塚 智康

卒業式 ～「答えのない時代」をたくましく生きる～



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年の卒業式は、規模縮小・時間短縮・在校生不参加という形で行われました。

例年行っている、卒業生と在校生の呼びかけを実施できず、また在校生みんなで6年生を見送ってあげることができず、本当に残念でした。しかし、臨時休業に入る前の週に、「6年生を送る会」を予定通り実施することができ、そこでは卒業生と在校生がいっしょになって、楽しい時間を過ごせたことは幸いでした。

6年生は、卒業式前日に少ししか練習できなかったにもかかわらず、卒業証書を堂々と受け取り、また休業期間中に家でCDを聞きながらしか練習できなかった「旅立ちの歌」をしっかりと歌って、立派な態度で、卒業式を終えることができました。さすが6年生だなあと感心しました。6年間の一人ひとりの成長が、本当によく伝わってくる卒業式でした。

卒業式の式辞では、「答えのない時代」と言われる現代、そして未来をたくましく生き抜いていくために、自分の身の回りにある様々な課題から目を背けず、自分の頭でしっかり考え、自分の考えたことをまわりの人たちに伝え、そして対話しながら考えを深め、より良い解決策を見つける力を高めていってほしいと伝えました。

そして、「神は乗り越えられない試練は与えない」という私の好きな言葉を引用し、今人類が直面している新型コロナウイルスのパンデミックという試練も、そして君たちの前に立ちはだかるであろう様々な試練も、自分自身やまわりの人を信じ、また大切にしていくことで、必ず乗り越えられる、というエールを送りました。

卒業生のみなさんの前途に、たくさんの幸せがやってきますことを心からお祈りいたします。

がんばれ6年生！

きんひがは君たちの母校です。また、いつでも遊びに来てください。そして、たくましく成長した姿を見せて下さい。

先生方は、いつまでも君たちを応援しています。